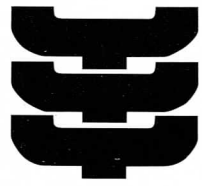


平成10年11月



米沢市文化財年報

No. 11

文化財愛護シンボルマーク

米沢市教育委員会



行 屋

国指定 平成9年12月15日

(重要有形民俗文化財)

重要有形民俗文化財の指定（国指定） 平成9年12月15日付けで指定を受ける

〔名 称〕 置賜の登拝習俗用具及び行屋

830点 附14点 行屋3棟

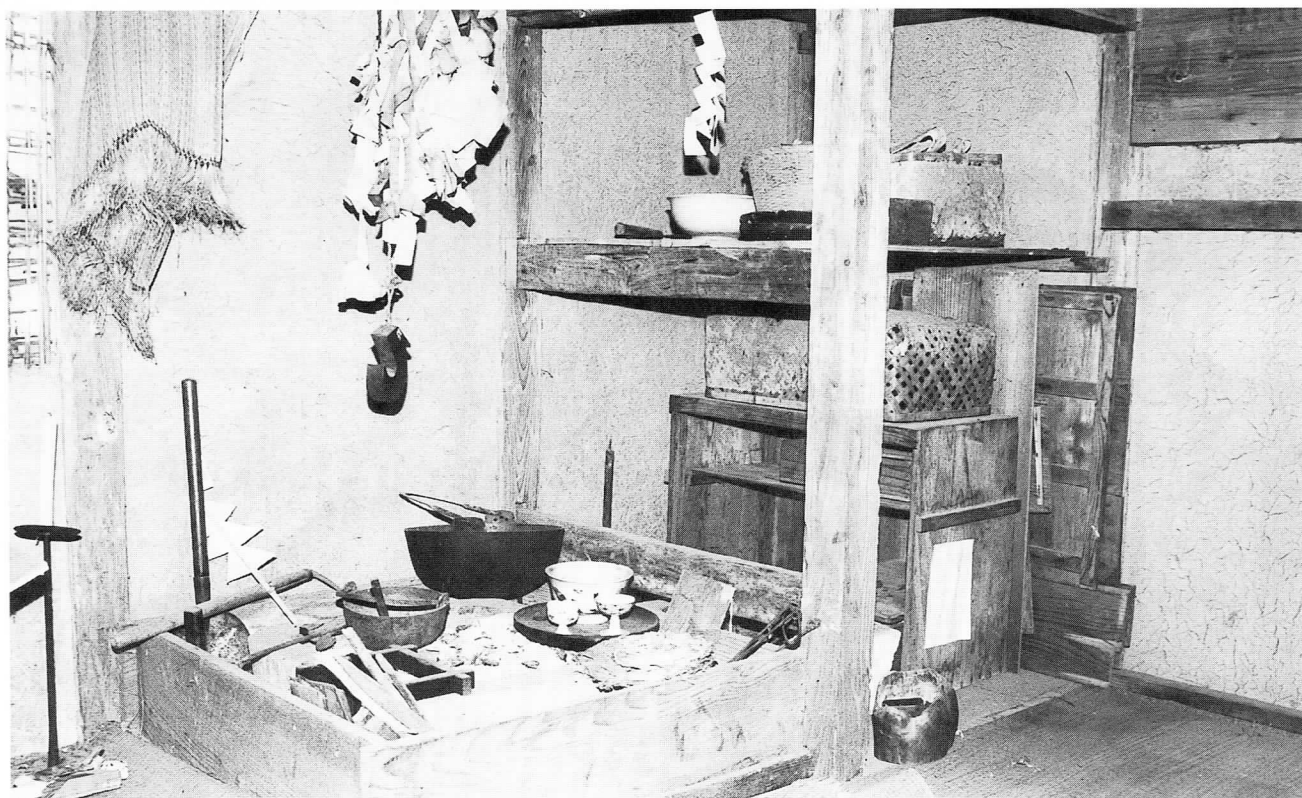
〔所有者〕 山形県米沢市六郷町西藤泉 （財）農村文化研究所

米沢盆地を中心とする置賜地方では、「お西詣り」といって、3歳～15歳の男子が旧盆までにお西山と呼ばれる飯豊山に登拝する習俗があり、登拝する前行屋に1～3週間籠もり、水垢離をして別火生活を送るなど厳しい精進潔斎を行っていた。「お西詣り」は3年間続けるものとされ、これを成し遂げれば、一人前の大人として認められた。この「お西詣り」を終えると「お北詣り・お下詣り」などと呼ばれる「出羽三山詣り」に参加することができた。「お西詣り」習俗は大正期中頃で終わったが、「お北詣り」の習俗はその後も続けられており、行屋でのお籠もりの習俗も第二次世界大戦後まで残されていた。

この資料は、行屋でのお籠もり関係用具、登拝関係用具、家具調度などの行屋関係用具、及び行屋により構成されるコレクションである。

行屋は神聖なものとされ、ここで使用された個人用の飲食具は行者の名前を書いたふきんで包んで保管されていた。

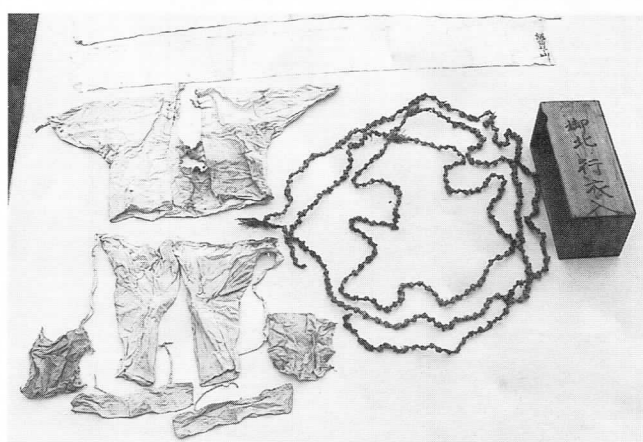
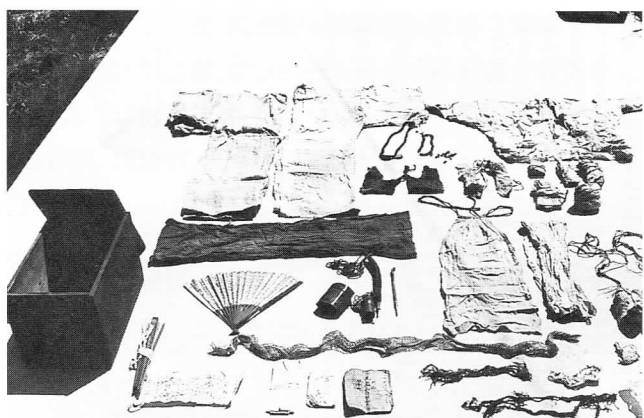
また、火の管理は特に厳重であり、お西詣り用の火とお北詣り用の上火が明確に区別されており、火打ち石も別々のものが用いられていた。このコレクションは、行屋とお籠もりの用具がセットで残されており、用具の多くに使用者名や年号、飯豊山・湯殿山などの登拝先の別が墨書されているなど、置賜地方の山岳登拝習俗の実態を伝えるものとして特に重要である。



行 屋 室 内



登拝関係用具

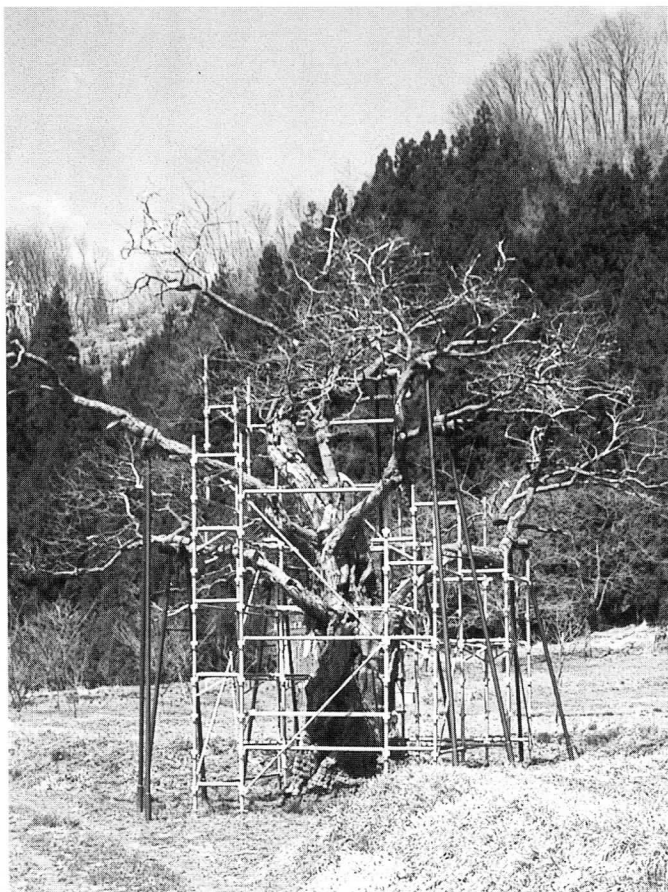


行屋お籠もり関係用具

山形県指定天然記念物

山上の大クワ

この地は以前、南置賜郡山上村であったことから、そこに生育しているクワの大木ということで「山上の大クワ」と名付けられた。昭和30年8月1日、山形県指定天然記念物に指定されたもので、根周り5m、地上高1.2mでの幹周り4.1m、高さ凡そ10mである。老木のため、幹の内部は空洞化し、樹勢が著しく衰えてきたため、平成8年10月に米沢市が管理団体指定を受け、腐朽部除去や薬剤塗布などの保存対策事業を実施した。



史跡、米沢藩主上杉家墓所保存修復事業

上杉家墓所 吉憲廟・綱勝廟 保存修理工事



国庫、県費、市費等の補助事業として平成9年度は2棟2カ年の継続として実施。

破損状況は……5代廟、銅板葺の屋根は、杉の小枝等の落下物や積雪時の雪下ろし作業時の損傷によってハゼの切れや穴の破損がひどくみられ、正

面向拝は雨漏りによって木部の腐朽が進行し、落ち込んでいた。木部は床組材に蟻害が生じて、土台や大引が腐朽しており、周囲横羽目板は、割損と湾曲に変形を生じていた。正面向拝は雨漏りによって木負や化粧裏板及び裏甲等の部材の腐朽が進行し、ているため軒下に支柱を立てて落下を防いでいる。

3代廟についても、5代廟と同様、2カ年継続事業とした。

埋 蔵 文 化 財

平成9年度の埋蔵文化財に係わる調査依頼を受けたものは、分布調査25件、立会調査6件試掘調査76の105件であった。このうち、緊急発掘調査の対象として記録保存を行った遺跡は6件で、個人の宅地造成が3件、原因者負担による宅地造成が2件、学術調査1件となる。このうち、特に成果が注目された2遺跡について紹介する。

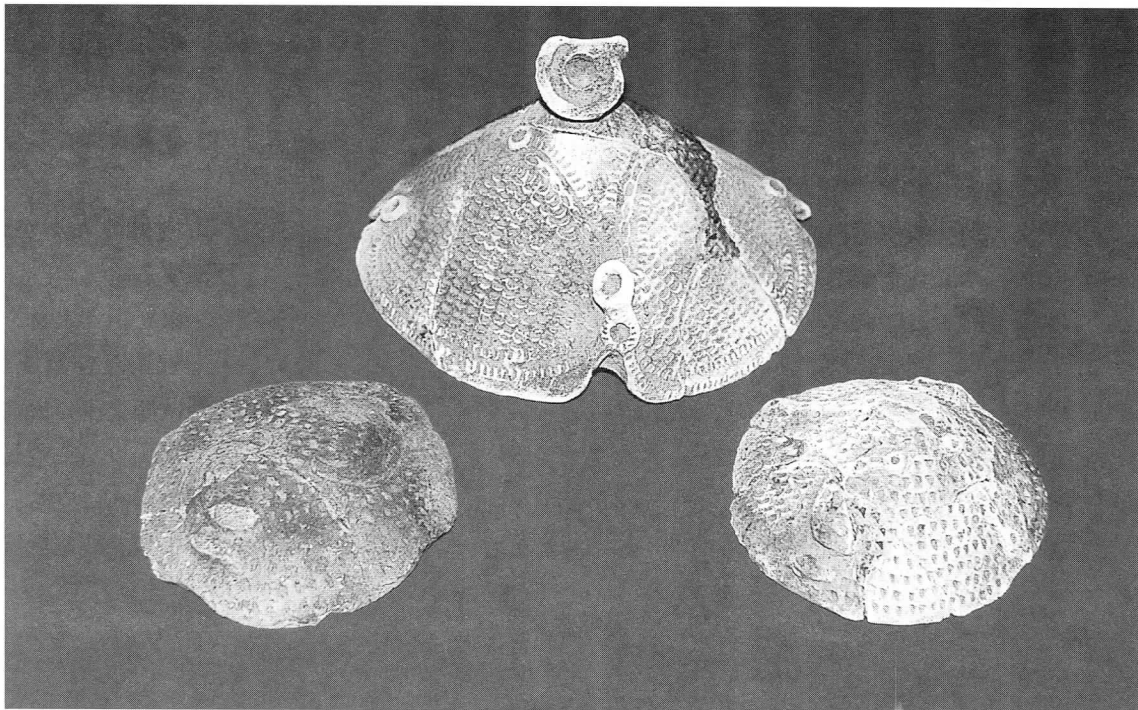
1. 大樽遺跡「米沢市舘山4丁目地内」

宅地造成に伴う緊急調査として実施したもので、縄文早期から中世に亘る大規模な複合遺跡である。調査では、縄文前期初頭と後期初頭を中心に土壌群がまとまって検出されている。前者の前期は、大型の土壌をはじめ、小規模な袋状土壌に土器を埋納した遺構が認められ、この遺跡は一ノ坂遺跡が機能していた時期とほぼ一致することが判った。

一ノ坂遺跡は、我国でも例のない石器製作を行っていた工房集落で、平成9年に国の史跡指定を受けている。大樽遺跡の分布する集落範囲が相当な広がりを示すことや一ノ坂遺跡の性格を考慮すれば、密接な関連性が指摘される。後者の後期は、関東地方や新潟県の影響をもつ土器群の他、これまではごく僅かな確認であった中期から後期に移行する土器が検出されたことである。特に新潟県を中心とする三十稲葉式の蓋形土器は県内初の確認である。今回の調査区は、墓墳及び貯蔵等の施設を中心とした空間地域とみられる。

2. 木和田古墳「米沢市大字木和田字月原地内」

昭和26年当時、偶然発見された横穴式の古墳で地元の研究者によって数回の調査が行われたが、詳しい記録については残っていないことから確認調査を実施したものである。古墳は既に蓋石や墳丘と袖石の一部が失われていた。調査の結果、東西12.9m、南北15.8mの山寄式の円墳で、南東に開口する主体部をもつ。主体部は、玄室が直径3.5m、幅1.6m、羨道は側壁が一部残存しているのみで、羨門は失われている。遺物は人骨の断片が認められた以外は既に取り除かれていた。ただし、玄室の規模としては現在確認されている横穴式石室としては県内最大であり、隣接する市指定史跡の木和田窯跡との関連性から7世紀後半代の有力豪族の墓と推測される。



大樽遺跡出土蓋形土器

米沢市新博物館基本計画

1. 基本的な考え方

基本理念

(1) 郷土愛の醸成

地域を再発見し、地域の素晴らしさを認識することによって郷土愛を醸成する。

(2) 広域交流の実現

ア 米沢市を中心としながら、さらに置賜地域全体を見据え、地域住民に開かれた施設とする。

イ 来館者に感動を与えるような、魅力ある施設とするとともに、地域資源として活用され、地域間交流を促進する施設とする。

ウ 情報の収集・発信機能としての役割を果たす施設とする。

(3) 学術・文化の振興

ア 歴史・文化に関する資料の収集、保存、伝承に努め、学術・文化・郷土研究の振興を図る。

イ 生涯学習の振興に資するとともに、特に博物館と学校教育との連携を図る。

基本的性格

米沢市を中心として、置賜地域の特性を最大限活かした人文系の登録博物館とし、文化財公開施設の基準を満たす施設とする。特に、未来に向けて活用できる博物館を目指すとともに、他館などとのネットワーク化を図りながら、地域の歴史・文化情報の中核施設に位置付ける。

なお、地域住民の文化交流活動の実践・発表の場となる県立文化活動交流施設との合築となることを踏まえ、博物館の基本的な性格を、次に掲げるものとする。

- (1) 地域の歴史・文化を明らかにするとともに、上杉氏関係の文化財、古文書などを調査研究し、その成果を発信する性格を有する。
- (2) 地域に特徴的な民俗事象などを理解できる性格を有する。
- (3) 地域関連の先人と地域ゆかりの作家の美術工芸を紹介する性格を有する。

方向性

米沢市及び置賜地域は、国宝「洛中洛上杉家文書」など、全国、全世界に誇るものに、幾多の有為な人材を輩出してきた。る精神や行屋などに見られる特色ある民

こうした地域の歴史や独自の営みの中財、また歴史的資料を通して、郷土のすもに、市民一人一人が日々の暮らしの中つながりを考えることのできる博物館のている。

特に、複雑化し多様化する現代社会にがりや精神面の充足を図りながら、知識一人が相互に高めあい、豊かなつながりニケーションの場が求められている。

地域の持つ貴重な資料や独自の情報をとはもとより、これらの資料や情報を、者を含め博物館を訪れる人々全てにとつことのできる資源としてとらえ、以下の

- (1) 市内外の人々が地域の特性を知認識する。
- (2) 未来を担う人材を育成するために
- (3) 米沢市及び置賜地域のイメージ
- (4) 地域間交流の促進をはじめとした

こうした考えに立ち、基本理念及び基ら、次のような機能を持つ新博物館の具

外図屏風」や重要文化財
べき文化財を有するとと
また、草木塔の建立に至
俗事象も伝えられてきた。

から生まれてきた文化
くれた文化に触れるとと
で地域の歴史や文化との
役割は一層重要性を増し

あつては、人間的なつな
や趣味を媒介として一人
を生み出していくコミュ

保存・研究・展示するこ
市民にとって、また外来
て豊かな交流を生み出す
ような展開を考える。

り、その素晴らしさを再

役立てる。

アップを図る。

地域振興に活用する。

本的性格を踏まえなが
現化を図る。

1. 郷土愛の醸成

◇郷土愛を育み、新たな歴史の創造に寄与する機能

上杉氏関係の貴重な文化財、鷹山公の事績、南東北（みなみとうほく）の要地としての地域の歴史、この地に生きた人々の足跡などについての資料や情報を保存・研究・展示する新博物館を通じて、地域を知り、共通の認識を深め、郷土への愛着と共感の輪を広げるよう努める。それとともに、常設展示を中心に、企画展示やイベントといった形で常に学習の動機づけが用意され、学習支援活動を展開できる博物館の相乗的な効果を活かし、地域の未来につながる活動の展開を目指す。

◇市民の自己実現を支援する機能

市民の豊かな感性や知的な創造力が、米沢・置賜地域の新しい世紀を拓く原動力となる。新博物館は、市民の積極的な社会との関わり、学びや生きがいの追求に応えられるよう、利用者主体のシステムを検討し、市民の主体的な参加・参画を受け入れる。また、日常的で身近な存在として、市民の生活を彩るゆとりや潤いにあふれた施設のあり方を考える。

2. 広域交流の実現

◇米沢の魅力に出会う感動あふれる文化観光施設としての機能

地域の歴史的・文化的資産の集積地に誕生する新博物館は、米沢を訪れる人々や観光客に、その魅力をアピールする文化観光施設としての役割も担う。地域の特徴的な歴史・文化が感じられる空間づくりや展示・イベント・周辺環境整備などにより、来館者それぞれが感動を味わえる施設づくりを目指す。

◇米沢、南東北、全国規模で情報の受発信が図られる情報機能

置賜、南東北までを視野に入れた豊かな研究成果を広く発信できる情報拠点としての整備を図る。コンピュータを介した情報通信手段の飛躍的な進展を考慮し、調査研究成果のデータベース化、関連機関・博物館等とのネットワーク化などを進め、広範な情報の受・発信を展開できる情報センターとしての活動を目指す。

3. 学術・文化の振興

◇地域の歴史・民俗及び上杉文化に関する誰もが参加できる開かれた研究機能

地域の全体像を解明するための歴史・民俗等に関する調査研究の充実とあわせ、全国レベルでの高い学術的価値を持つ上杉家文書などに関する研究を推進し、上杉文化に関する研究拠点としての機能をもたせ、市民、来館者、また全国の研究者など、誰にでも開かれた施設として、研究活動への参加・協力を受入れる。

報告書紹介

米沢市教育委員会では、埋蔵文化財及び一般文化財を年次毎に調査し、報告書を作成しておりますので紹介します。

【埋蔵文化財調査報告書】 欠番は在庫なし

○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 (水神前・柿の木・二タ俣B各遺跡)	第6集	¥4,000
○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 (八幡堂・二タ俣A各遺跡)	第8集	¥4,950
○『左沢遺跡発掘調査報告書』	第11集	¥1,500
○『法将寺遺跡発掘調査報告書』	第12集	¥1,040
○『白旗遺跡発掘調査報告書』	第13集	¥ 500
○『上浅川遺跡発掘調査報告書』	第15集	¥6,000
○『石垣町遺跡発掘調査報告書』	第16集	¥ 800
○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』(大清水遺跡)	第17集	¥3,700
○『大浦A・C遺跡発掘調査報告書』	第18集	非売品
○『三の丸・生運寺遺跡発掘調査報告書』	第19集	¥1,170
○『木和田館跡第1次発掘調査報告書』	第20集	¥ 400
○『比丘尼平遺跡発掘調査報告書』	第21集	¥ 950
○『遺跡詳細分布調査報告書』第1集	第23集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第2集	第25集	非売品
○『覚範寺第1次・第2次発掘調査報告書』	第26集	¥1,510
○『遺跡詳細分布調査報告書』第3集	第27集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第4集	第28集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第5集	第32集	非売品
○『大浦C遺跡発掘調査報告書』	第33集	非売品
○『上新田A遺跡発掘調査報告書』	第34集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第2集	第35集	非売品
○『大浦B遺跡発掘調査報告書』	第36集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第6集	第37集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第3集	第38集	非売品
○『上新田A遺跡発掘調査報告書』	第39集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第4集	第40集	非売品
○『矢子山城跡調査報告書』第1集	第41集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第7集	第42集	非売品
○『塔ノ原遺跡発掘調査報告書』	第43集	¥1,200
○『米沢城跡発掘調査報告書』	第44集	¥1,300
○『直江石堤 谷地河原堤防測量調査報告書』	第45集	¥ 400
○『窪平遺跡Ⅰ次・Ⅱ次発掘調査報告書』	第46集	¥1,300
○『遺跡詳細分布調査報告書』第8集	第47集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第5集	第48集	非売品
○『矢子山城跡調査報告書』第2集	第49集	非売品
○『我妻館跡発掘調査報告書』	第50集	¥1,400
○『直江石堤発掘調査報告書』第2集	第51集	¥3,000
○『遺跡詳細分布調査報告書』第9集	第52集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査報告書』	第53集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第10集	第54集	非売品
○『台ノ上遺跡発掘調査報告書』	第55集	非売品
○『金ヶ崎A遺跡発掘調査報告書』	第56集	¥1,280
○『大神窯跡』	第57集	¥2,830
○『東屋敷館跡発掘調査報告書』	第58集	¥1,390
○『大浦A遺跡発掘調査報告書』	第59集	¥ 990
○『米沢遺跡地図』	第60集	¥7,000
○『遺跡詳細分布調査報告書』第11集	第61集	非売品

【一般文化財調査報告書】 以下在庫なし

- 『米沢の民家』
- 『米沢の仏像』
- 『米沢の神社・小祠・石造物』
- 『南原地区芳泉町』

平成10年度文化財事業

文化財の現状調査と基礎資料の整備

- ・「白猿」「白鳥」「ホタル」「登録文化財」等調査
- ・天然記念物「カモシカ」の保護

保存管理の充実

〔管理補助事業〕

- ・「上杉治憲敬師郊迎跡」(普門院・羽黒神社)
- ・「上杉家墓所」管理補助事業
- ・米沢藩主上杉家墓所保存修理補助
- ・県指定天然記念物保存対策事業
「西明寺のトラノオモミ」
- ・指定文化財の説明板整備

全国史跡整備市町村協議会との連携

後継者育成の促進

- ・万世梓山獅子踊保存会への補助

埋蔵文化財の保護・啓発

- ・親子発掘教室の開催・展示会
- ・開発事業に伴う緊急発掘調査の実施
- ・米沢城2丸跡発掘調査等

博物館展示事業

- ・太刀(姫鶴一文字・長船長光)甲冑、直江兼続、鷹山関係資料展
- ・米沢藩御用絵師の作品(日本画)の展示
- ・上杉鷹山の事跡及びとりまく人々に関する資料展示
- ・米沢藩ゆかりの人々に関する資料展示
(各展示に洛中洛外図の原本・複製を展示)

新博物館準備事業

- ・上杉家文書資料集作成
- ・資料台帳整備
- ・館蔵資料整備・保存
- ・図書資料分類整理
- ・資料調査

発行 米沢市教育委員会

〒992-0012 米沢市金池三丁目1-55

(担当 文化課文化財係)

TEL 0238-22-5111